

「思考スキル」を活用し、考えをつなぎながら、自己の生き方についての考えをより深める道徳授業の創造

西國原 拓也〔鹿児島市立田上小学校〕・藤谷 祐一郎〔鹿児島市立田上小学校〕
京田 憲子〔鹿児島市立田上小学校〕

Creation of morality classes to deepen a thought about the way of living of the self more, while utilizing thought skill and connecting ideas

NISHIKOKUBARU Takuya・FUJITANI Yuichiro・KYODA Noriko

キーワード：思考スキル、対話活動、考えをつなぎ、考え議論する道徳、授業スタイル

1 はじめに

平成27年3月に、学校教育法施行規則及び小・中学校の学習指導要領の一部改正が行われ、従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として新たに位置付けられた。この「特別の教科」化は、多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質であるという認識に立ち、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」へと転換を図るものである。小学校では、平成30年度から全面实施されることになっており、各学校においては「考え、議論する道徳」への質的転換を着実に進めていかななくてはならない。しかし、学校現場においては、「特別の教科」化で道徳はどう変わるのか、「考え、議論する道徳」とは一体どういうものなのか、なかなか捉えられていないように思われる。

これまでの道徳の時間については、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導が行われていることが課題として指摘されている。そして、「考え、議論する道徳」への質的転換に向けては、指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、質の高い多様な指導方法を行うことが求められている。

そこで、「考え、議論する道徳」への転換に向けて、読み物資料の登場人物の心情理解に終始する指導を避け、道徳的価値の理解を重点に置き、それを基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えをより深める指導の在り方を探っていく。

2 研究の方向と内容

これまでの研究において「自分の考えを整理し、表現するのが苦手な子供が見られる。」「対話活動の中で、自分の感じ方や考え方を広げたり、深めたりすることが苦手な子供が見られる。」といった課題が挙げられた。その要因の一つとして、道徳的価値についてどのように考えればよいかという思考の仕方が子供自身に身に付いていないことが考えられる。対話活動においては、子供の意識

が考えの共通点や相違点を見付けることに留まっており、互いの考えの根拠に迫ったり、さらに考えを練り合い、深め合ったりするところまでの意識が至っていないことが考えられる。

そこで、本研究では、道徳的価値について考えたり、今までの自分を振り返ったりする際、具体的に考えるための技法「思考スキル」を活用し、子供が資料を基に自分の考えと体験を比較したり、関連付けたりしながら考えるようにした。また、対話活動を充実させるためには、考えの深め方を身に付けることが大切だと考える。そこで、教師の発話を整理し、教師が意図的に対話活動に関わったり、考えのつなぎ方を示し、子供がそれを活用して対話活動を行ったりするようにした。そうすることで、道徳的価値についての理解を深め、自己の生き方についての考えをより深めることができる授業になると考え、研究を進めることにした。

3 「思考スキル」の活用を図った学習指導

(1) 「思考スキル」の活用を図るとは

「思考スキル」とは、「課題を解決するために必要な、思考する具体的な手順についての知識とその運用技法」と捉えた。子供が思考する場面において、「単に考えましょう。」という漠然とした言葉で考えさせるのではなく、適切な「思考スキル」を活用して考えを深めさせていくことが大切であると考えた。そうすることで、どのように考えたらよいか分かり、自分の考えをもつことにつながる。また、「思考スキル」の活用を図る際、思考を可視化することで、考えを整理・分析でき、自分の考えをしっかりとつことのできるようになる。さらに、思考を可視化したものを基に他者と話し合うことで、対話活動を充実させ、自分の考えを再構築することができると考えた。そこで、一つの図表で思考を可視化し、整理・分析することができる「見える図」や、書いたものを操作する中で思考を可視化することのできる「付箋紙や短冊」を、道徳の学習において活用していくことにした。

(2) 各学習過程における「思考スキル」の活用

「思考スキル」には、「比較する」「分類する」「関連付ける」「評価する」などのたくさんの種類がある。本研究では、「比較する」「関連付ける」「多面的にみる」「構造化する」という四つの「思考スキル」に絞って、道徳の学習で活用することにした。この四つの「思考スキル」は、道徳の学習で教師が発問や言葉掛け等でよく用いて子供に考えさせるものから選定した。また、この四つの「思考スキル」は、どの学習過程において活用することで、より効果的に道徳的価値の理解を深めたり、自分の体験を振り返ったりすることができるか検討し位置付けた。

ア 「比較する」を活用した問い直す活動

問い直す活動（展開前段）において、資料の登場人物と自分、資料に出てくる二つの状況等を比較しながら考えることが大切である。そうすることで、自分との関わりで考えたり、二つの状況から大切な道徳的価値に気付いたりすることができるからである。そこで、資料を読んで自分で考える際、複数の対象の相違点や共通点を見つける、「比較する」という「思考スキル」を活用するようにした。その際、図1のような「見える図（ペン図）」を活用することで、二つの事実や状況を整理しながら、共通点を見付けることができるようになる。

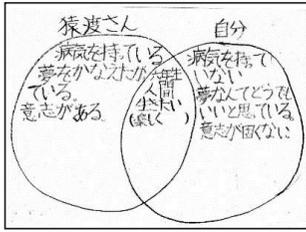


図1 ベン図

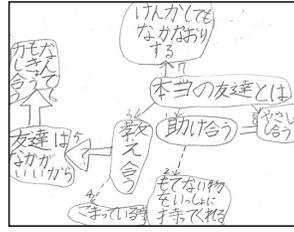


図2 コンセプトマップ



図3 Yチャート

イ 「関連付ける」を活用した問い直す活動

問い直す活動において、ねらいとする道徳的価値について資料や自分の体験を関連付けながら考えることが大切である。そうすることで、道徳的価値についてより具体的に考えることができるからである。そこで、複数の事柄の関係や関連を見る、「関連付ける」という「思考スキル」を活用するようにした。その際、図2のような「見える図（コンセプトマップ）」を活用することで、別な言葉で言い換えたり、具体例を挙げたりしながら、道徳的価値についての考えを広げ、深めることができるようになる。

また、「関連付ける」という「思考スキル」は、振り返る活動（展開後段）においても活用した。これまでの自分の体験を振り返る際には、できた経験とその時の気持ち、できなかった経験とその理由を関連付けながら整理することで、道徳的価値の自覚を深めることができるようになる。

ウ 「多面的にみる」を活用した振り返る活動

振り返る活動においては、様々な視点からこれまでの体験を見つめることが大切である。そうすることで、道徳的実践を支える見方・考え方への気付きが増えたり、気付きの質が高まったりするからである。そこで、ある対象を多様な視点で見る、「多面的にみる」という「思考スキル」を活用することにした。その際、図3のような「見える図（Yチャート）」を活用することで、様々な視点に目を向けてこれまでの体験を振り返ることができるようになる。

また、「多面的にみる」という「思考スキル」は、問い直す活動で道徳的価値の意義を捉える際に活用した。道徳的価値にはどんな意義があるのか考え、それを自分・他者・集団社会という視点で整理することで、道徳的価値について理解を深めることができるようになる。

エ 「構造化する」を活用した問い直す活動

問い直す活動においては、資料や自分の体験等の事実から、抽象的な言葉に置き換える帰納的な思考を用いながら、道徳的価値についてより深く理解することが大切である。さらに、振り返る活動やあたためる活動（終末）において、演繹的思考を用いながらより深まった道徳的価値から今までの自分を振り返ることも大切である。それは、こういった思考を経験することで、将来出会うであろう様々な事象に対して、主体的に判断して考えることができるからである。そこで、対象同士の関係を順序や筋道に沿って構成していく、「構造化する」を活用することにした。帰納的な考え方や演繹的な考え方を取り入れることで、論理的に考えることができるようになる。

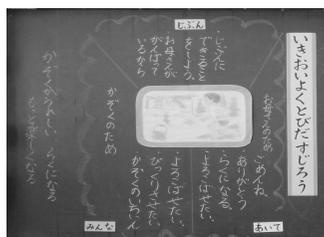


写真1 Yチャートの活用



写真2 ピラミッドチャートの活用



写真3 コンセプトマップの活用

(3) 「思考スキル」の活用を図り、学年段階に応じた授業スタイル

「考え、議論する道徳」への質的転換を図るためには、読み物資料の登場人物の心情理解だけに偏らない、多様な授業スタイルを構築していく必要がある。しかし、学年段階によっては成立できない授業スタイルもあると考える。そこで、学年段階に応じた授業スタイルを考え、目的に応じた「思考スキル」を活用しながら、道徳的価値について理解を深めたり、道徳的価値を基に自己を見つめたりしていくようにした。

ア 低学年段階における授業スタイル

低学年では、主人公の心情を中心に読み取り、道徳的価値について考える、「心情追求型」の学習過程で展開するようにした。その際、写真1のように、板書において「多面的にみる(Yチャート)」を活用することで、様々な視点から道徳的価値について考えることができるようになる。

イ 中学年段階における授業スタイル

中学年では、「心情追求型」の学習過程に加え、価値そのものについて追求し、より深い道徳的価値の理解から自分を見つめ直す、「価値理解型」の学習過程で展開するようにした。その際、写真2のように、板書において「構造化する(ピラミッドチャート)」を活用することで、帰納的な考え方や演繹的な考え方が身に付き、抽象と具象を行き来しながら、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができるようになる。

ウ 高学年段階における授業スタイル

高学年では、「心情追求型」「価値理解型」に加え、自分だったらどうするかという立場を明確にする「立場明確型」の学習過程で展開するようにした。その際、写真3のように、自分で選択した「見える図」等を活用しながら友達と議論し、道徳的価値について深く考えるようにした。そうすることで、自分の価値観が変化したり、付加されたり、強固になったりして、道徳的価値の理解をより深めることができる。

4 対話活動の充実を図った学習指導

(1) 思考を促し、考えをつなぐ教師の発話

道徳の学習では、対話活動を通じて、ねらいとする道徳的価値について感じたことや考えたことを伝え合い、友達の感じ方や考え方に触れて、自分の考えを深めていくことが大切である。そこで、子供の思考を促す場面における教師の発話を、表1のように「思考スキル」に応じて工夫することにした。対話活動において、教師が意識して発話をすることで、子供が筋道立て

で考えることができるようになり、道徳的価値の理解をより深めることができるようになる。

表1 対話活動における子供の思考を促し、考えをつなぐ発話(例)

考えのつなぎ方(関連する「思考スキル」)	発話例
資料と自分の体験等を比較して考えるようにする。 「比較する」	T 主人公と同じ気持ちになったことないかな。 T 主人公と自分との違いは何かかな。
具体例を挙げて考えるようにする。 「関連付ける」	T 例えば働いてどういうこと。 T 資料で考えるとどの場面かな。
子供が伝えきれない内容を、教師が一言の適切な表現で言い換える。 「変換する」	T あなたが言いたいのは、自分のためだけでなく、社会生活をどうすることかな。
様々な視点から考えるようにする。 「多面的にみる」	T 自分にとって、どんなよさがあるかな。 T 社会にとっても大切なかな。
意見の理由や根拠を明確にする。 「理由付ける」	T みんなのために働いたと思ったのは、クリーン作戦をした時なのですね。どうしてそう思ったの。
出てきた考えをまとめ、全体で分かる形にする。 「一般化する」	T つまり、ボランティアとはどんなものかな。 T まとめると、どうなるかな。
反例をあげて、子供の意見の妥当性を問う。 「反証する」	T でも、働きたくないこと(とき)もあるよね。 T もし、ボランティアをしなかったら、どうなるかな。

(2) 子供同士での思考のつなぎ方

道徳の学習での対話活動においては、教師が意図的に関わり、思考を促したり、考えをつないだりするだけではなく、子供同士で考えをつなぎながら、道徳的価値について深く考えることが大切である。そのためには、子供自身が考えの説明の仕方や考えのつなぎ方を理解し、それを意識して発言していくことが必要となる。そこで、図4のような「つなぐ」名人カードを作成し必要に応じて活用できるようにしたり、「でも」「例えば」「つまり」といった思考を深める言葉を教室に掲示してすぐ使えるようにしたりした。そうすることで、子供同士で考えをつないで対話活動を進め、主体的に道徳的価値の理解を深めることができるようになる。

「つなぐ」名人カード 考えをつないで **な**かまともに **く**〜んと高め合おう！ 5・6年用

質問

友達の考えの意味を聞くとき
それは、どういう意味ですか。

友達の考えをくわしく聞くとき
それは、どういうことですか。

友達の考えた理由を聞くとき
どうして、そうなるのですか。
どうして、そう思うのですか。

「聞く」名人

- 相手の考えを大切に、(うなずき・反応)
- 自分の考えと比較しながら、(仮定・通う)
- 理由や根拠を確かめよう。

まとめ

自分の考えが変わったことを言うとき
〇〇さんの考えを聞いて、〜という考えに変わりました。
最初〜と聞いていたけれど、〜という考えもいいたく思いました。

自分の考えに自信をもったとき
〇〇さんの考えを聞いて、やっぱり〜だなと思いました。

出てきた考えをまとめるとき
整理すると、〜です。つまり、〜です。
△と□の考えをまとめると、〜です。

「まとめる」名人

- 友達の考えのよさを見つけて。
- キーワードを生かして。
- 学習のめあてをふり取りながら、まとめよう。

意見

学習したことや友達の考えと比べて言うとき
前に学習した〜で考えると、今回は〜。
〇〇さんと△△さんの考えは、にている(ちがって)〜。

友達とちがう考えを言うとき
ほかにもあります。それは、〜。
〇〇さんの考えとはちがって、〜。

友達の考えに付け加えるとき
付け加えます。それは、〜。

友達の考えをくわしくしたり、言いかえたりするとき
くわしく説明します。
分かりやすく説明します。
図を使って説明します。
たとえば(例をあげると)、〜。
別な言葉で言うと、〜。
簡単に言うと、〜。

友達の考えをよりよくするとき
今の考えをもっと〜にします。
〜すれば、もっと〜になります。

どの考えがよいか言うとき
△と□を比べると、□がよいと思います。理由は、〜。
この中では、□がよいと思います。理由は、〜。

しょうげんや数を並べて説明するとき
もし、〇〇が〜なら、〜。

「話す」名人

- 話す順序を考えて。
- 理由や根拠をはっきりさせよう。
- 自分の経験から、友達の意見から、言葉や図から

図4 「つなぐ」名人カード

(3) 多様な対話活動の設定

これまでの研究では、対話活動において、ペアやグループ活動と取り入れて進めてきた。特に低学年では、ペアでの対話活動を取り入れ、互いに話し手と聞き手になって、考えを受け止めるようにした。また、中学年では、グループで役割を分担して協力しながら対話活動を行ってきた。高学年では、自由に発言できるグループでの対話活動を設定してきた。

本研究では、更に主体的に対話活動を行うことができるように、ペアやグループでの対話活動に加え、自由に考えを見て回る「ギャラリーウオーク」や自由に回り、他のグループの考えを見たり質問したりする、「番カフェ」等を取り入れるようにした。

また、中学年から高学年においては、内容項目や資料によって、自分の立場を明確にしてグループで議論する「グループ・ディスカッション」を設定した。代表的な資料としては、中学年では「大きな絵はがき」、高学年では「手品師」や「ロレンゾの友達」などがある。この対話活動では、自分のこととして考え、立場を明らかにし、その立場を選んだ根拠について話し合うようにした。そうする中で、道徳的価値の意義に気付き、自己の生き方についてより深く考えることができるようになる。

5 道徳学習指導の実践

第4学年の実践

(1) 主題名 正直に生きる

(2) 資料名 「百点を十回取れば」(読み物一学研教育みらい)

<資料について>

本資料は、主人公てつろうが漢字テストで百点を十回続けてとると、母からサッカーシューズを買ってもらえることになる。十回目のテストでも百点を取るが、間違った漢字に丸がついていた。どうするか迷ったあげく、先生に正直に話し、気持ちがすっきりしたという話である。

本資料では、「採点の間違いを正直に話そうという気持ち」と「サッカーシューズを手に入れるためにごまかそうという気持ち」との間で迷う主人公の姿が描かれている。子供は、日常的に起きそうな出来事であるため、主人公になりきって考えることができる。心の葛藤を通して、正直に話すことですっきりし、明るい気持ちになることを感じ取ることができる資料である。

(3) ねらい

うそをついたりごまかしたりせず、正直に明るい心で元気よく生活しようとする心情を育てる。

(1-④ 正直、誠実・明朗)

(4) 実際

ア 教師の手立ての工夫

「思考スキル」の活用を図り、学年段階に応じた授業スタイル

今回は、「心情追究型」の学習過程で行い、問い直す活動では、主人公てつろうの正直に話す決心について問い、道徳的判断について考えるようにする。そこで、決心に至った理由を付箋紙に書いて、グループで整理し、根拠を確かめながら話し合うことができるようにした。その際、その理由を順序付けながら、決心につながる一番の理由を出すようにする。

子供同士での考えのつなぎ方

グループでの協働的な「学び合い」では、考えを書いた付箋紙を分類しながら、より納得の

いく理由について吟味していくようにする。その際、「どうして」「どういうこと」「それは」「例えば」「でも」「つまり」といった、子供同士での考えのつなぎ方を意識し、対話活動を行うようにした。そうすることで、互いの考えをより深く理解し、多様な考え方に気付くことができるようにする。

子供の思考を促し、考えをつなぐ教師の発話

グループで話し合ったことを基に、てつろうの決心の根拠について全体で整理して話し合うことで、正直に生きることの快適さや周りの人への影響といった道徳的意義について考えを深めることができるようにする。その際、教師が「でも、叱られるから先生に言ったんじゃないの。」などの反例を挙げたり、「このことは、どんなよさにつながるのかな。」などの関連付けを図ったりすることで、子供同士で考えをつなぎながら、より主体的に互いの考えを吟味し、道徳的価値の理解を深めることができるようにする。

イ 本時の実際

1 うそやごまかしをした体験やそのときの気持ちについて話し合う。 【見つめる活動】



これまで、うそやごまかしをしたことってありますか。どんなときにしてしまったのだろう。

忘れ物をしたとき、先生に言わずに黙っていた。

どうして、正直に言えなかったのですか。

叱られると思ったから。

うそやごまかしをしないためには、どのような気持ちが大切だろう。

2 資料を読み、てつろうの気持ちを中心に話し合う。 【問い直す活動】



- (1) テストの間違いに気付いたてつろうの気持ちについて話し合う。
 - (2) てつろうが先生に正直に言う決心をした理由について話し合う。
- ア 決心に至った理由を考え、付箋紙に書き、グループで話し合う。

T：てつろうはどんな考えから先生に正直に言う決心をしたのだろう。

(理由を付箋紙に書いて、グループで話し合い、順序付ける。)

C1：てつろうは、自分がすっきりしないから、正直に言おうとしたと思う。

C2：自分がすっきりしないって、**どういうこと？**

C1：うそをついたら、心がもやもやするでしょう。逆に正直にしたら、心がすっきりして、いい気持ちになるということです。

C3：**ぼくは、C1くんと少し違います。**ぼくは、後でばれるといやだからと思うよ。

C4：ああ、それもあるね。後のことを考えたんだね。

C2：**その考えに似ていて、うそがばれたら叱られるからもあるよね。**

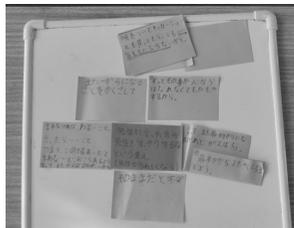
C3：**つまり、叱られるからいやだということだね。**

C1：**でも、それは一番の理由じゃないよね。だから、下の方じゃない。**

C4：**ほかにも、うそをついたら自分のためにならないからというのもある**と思うよ。

C1：それもあるね。でも、やっぱり、うそをついたままではいい気持ちにならないからじゃない。

C4：そうだね。いい気持ちにならないからが1番目だね。



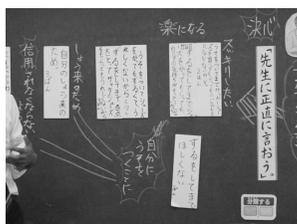
決心に至った理由を話し合い、ダイヤモンドランキングで順序付ける。

※グループでの話し合い後、
ギャラリワークを行った。

イ 決心の根拠について、全体で整理しながら話し合う。

T：みんなの考えでは、どの理由が一番決心につながったの。

(意見を出し合い、整理・分析する。)



C5: やっぱり、てつろうは、正直に言ったほうがいい気持ちになるから言おうとしたと思います。

T: でも、自分たちのことで考えてみて。みんなは叱られるから、正直に言うという人が多かったよね。本当は叱られるから言ったのじゃないの？

C6: 叱られるからというのも、少しはあったかもしれないけど、正直に言うほうがいいと思ったからだと思います。

C7: ぼくも叱られるのがいやよりすっきりしたいからだと思います。

T: 正直に言うのは、心がすっきりするんだね。正直に言うことは、ほかにどんなよさにつながるのかな。

C8: わたしは、相手がうれしくなるんだと思います。

C9: 相手がうれしくなるって、どういうことですか。

C8: 正直に話してもらったら、聞いた方はいい気持ちになって、うれしくなるということです。

C10: ほかに、正直に言うとも明るい気持ちで過ごせると思います。

3 本時の学習で分かったことやこれまでの体験を振り返る。

【振り返る活動】



今日の学習で大切だと思ったことを、道徳ノートに書きましょう。うそごまかしをしないためには、どんな考えを大切にすればよいかな。

うそごまかしをしないためには、叱られるからじゃなくて、自分に正直になることが大切だと思います。

正直になるとすっきりするし、明るい心で過ごせると分かった。

(5) 考察

問い直す活動において、教師が子供の思考を促し、考えをつなぐ発話をしたり、子供自身が考えのつなぎ方を意識して対話活動を行ったりしたことで、子供同士で根拠を基に考えをつなぎながら共有化・吟味し、多様な考え方に気付くことができるようになった。また、子供一人一人が大切にしたい考えについて再構築し、道徳的価値の理解をより深めることができるようになった。

第6学年の実践

(1) 主題名 誠実な心

(2) 資料名 「手品師」(読み物—学研教育みらい)

<資料について>

本資料は、あまり売れない手品師が、大劇場のステージに立つことを夢見ていた。手品師はさびしそうな男の子に手品を見せ、元気にする。そして、その男の子と「明日もきつと来る」と約束する。ところが、その夜、夢をかなえるチャンスが訪れる。手品師は迷うが、男の子との約束を優先し、一人のお客を前にして手品を演じる話である。

本資料では、「男の子との約束を守るか。」「大劇場のチャンスをつかむか。」との間で迷う主人公の姿が描かれている。実生活において、「約束を選ぶべきか、自分の都合を選ぶべきか。」の選択を迫られる様々な場面に遭遇することがある。子供は、主人公の手品師の「男の子との約束を守る。」という誠実な心に触れて、誠実にすることのよさが胸にしみる資料である。

(3) ねらい

自分の利害損得にとらわれることなく、いつも誠実に明るい心で生活しようとする心情を育てる。
(1-④ 正直、誠実・明朗)



グループ・ディスカッション



「見える図（ベン図）」の活用



(3) それぞれの感じ方や考え方の共通点や相違点に気付くことができるように、出てきた考えを「見える図」に整理しながら全体で話し合う。

男の子との約束を守るグループの意見

C5：最初に約束をしたら、絶対に守るべきだと思うよ。なぜなら、自分が約束を破れたらいやな気持ちがするからね。

C6：それに、約束を守れない人は絶対成功しないと思うよ。なぜなら自分勝手だからね。

C7：もし、大劇場に行ってしまったら、男の子のことが気になってしょうがないと思うよ。

大劇場に行くグループの意見

C8：自分の夢をかなえるためには仕方がないと思うよ。男の子と一緒に連れていく方法もあったと思うよ。

C9：せっかくのチャンスをなくしたくない。だって、自分の夢だもん。

C10：大劇場で成功して、男の子をマジックショーに招待することもできる。（出てきた考えを「見える図（ベン図）」に整理する。）

T：今それぞれの立場を比べて、何か共通していることはないかな。

C11：自分のことばかり言っている。

T：それって、どういうこと。

C12：それぞれの立場で感じたことを言っている。

T：つまり、どういうこと。

C13：自分の心に正直ってことかな。

T：誠実って自分の心に正直に向き合うってことかな。

C13：自分の心に正直に向き合うけど、その時、その時で違う。

T：その時、その時で違うって、どういうこと。

C13：今回、最初に約束したから、約束を守ることが大切だと思う。

T：つまり、誠実って約束を守ることなのかな。

C13：少し似ていて、自分の考えを変えないことかな。

C14：でも、その時々で判断することが大切なかもしれない。

3 本時の学習で分かったことや考えたことを振り返る。

【振り返る活動】

誠実とは、どういうことかな。
ノートに書いてみよう。

誠実とは、自分が大切と思ったことを変えないことだ。

自分自身に誠実になることで、自分の行動に自信がもてそうだ。

(5) 考察

問い直す活動において、「見える図」等を使って自分の立場を明確にすることにより、根拠をもって友達同士で話し合うことができるようになった。また、内容項目や資料によって、グループ・ディスカッションという学習方法を設定することで、資料の主人公の考えや行動について、自分のこととして考えることができるようになり、自己の生き方についてより深く考えることができるようになった。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ 道徳の学習において、各学習過程で「思考スキル」を位置付けて活用を図ったことで、子供が道徳的価値についての理解を深め、自分を見つめていることが分かる発言や記述が多く

見られるようになった。

- ・ 「思考スキル」を繰り返し活用することにより、内容項目や資料に合わせた「思考スキル」の活用の仕方が身に付き、自分の考えに自信をもって発言する姿が見られた。
- ・ 低学年では「心情追求型」を中心に、中学年では「価値理解型」を加え、さらに高学年では「立場明確型」を加えるといったように、学年段階に応じた授業スタイルを設定し、実践していくことで、生き生きと活動する姿が見られ、道徳的価値について深く考えることを楽しむ子供が増えた。
- ・ 対話活動における子供の思考を促し、考えをつなぐ発話を「思考スキル」に応じて活用することで、子供が考えのつなぎ方を意識するようになった。また「つなぐ名人カード」も活用することで、子供同士で考えをつなぎ、主体的に対話活動を進めるようになった。
- ・ 多様な対話活動から、内容項目や資料、学年段階によって選択することで、子供が主体的に対話活動を行い、道徳的価値について自分のこととして考える姿が多く見られるようになった。

(2) 課題

- ・ 道徳的価値の理解を深めるための、発達の段階に応じた授業スタイルが効果的であったか、更なる授業スタイルについて研究し、どの内容項目や資料で効果的であるか明確にする必要がある。
- ・ 「思考スキル」をより効果的に活用することができるように、「思考スキル」を活用できる内容項目や資料を洗い出し、年間指導計画に位置付ける必要がある。
- ・ 道徳的価値の理解をより深めることができるように、グループ・ディスカッションを行うときには、1主題につき2時間扱いで行うなど、更に実践を積み重ねる必要がある。
- ・ 平成30年度からスタートする「特別の教科 道徳」に向けて、子供の道徳性を評価できるように、道徳の評価の在り方について研究していく必要がある。

付記

本報告は、鹿児島大学教育学部代用附属鹿児島市立田上小学校平成26～28年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、道徳教育において研究を更に発展させ、その研究成果をまとめたものである。

参考文献

- 文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 道徳編」．東洋館出版社
- 関西大学初等部（2012）「関大初等部式 思考力育成法」．さくら社
- 押谷由夫・福田富美雄（2008）「小学校新学習指導要領の展開 道徳編」．明治図書出版社
- 赤堀博行（2013）「道徳授業で大切なこと」．東洋館出版社
- 新宮弘識（2013）「道徳授業ハンドブック」．光文書院
- 假屋園昭彦（2014）「道徳哲学研究会活動報告書」．鹿児島大学

